

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

高齢者がん診療ガイドライン策定とその普及のための研究

研究分担者 唐澤 久美子 東京女子医科大学 放射線腫瘍学 教授  
杉本 研 川崎医科大学 総合老年医学 教授

研究要旨

ガイドラインに対応する教育・研究・診療の基盤となる老年腫瘍学のテキストを、老年医学と腫瘍学の編集委員により編集、関連領域の臨床家と研究者に執筆を依頼し、日本がんサポーターブケア学会教育委員会の査読を経て、2023年3月に発行した。

A. 研究目的

厚生労働省科学研究 がん対策推進総合研究事業「高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究」（2018～2020年度、研究代表：田村和夫）が過去3年間にわたり実施した事業の結果、診療指針策定にあたり基盤となる学問としての老年腫瘍学のテキストブックの必要性が浮き彫りになった。そこで、本研究では、老年腫瘍学のテキストブックを、班員、研究協力者及び日本がんサポーターブケア学会教育委員会と協議し、テキストブックの内容と執筆者、査読者を決定し、研究成果を日本がんサポーターブケア学会が引用する形で出版を行うこととした。

B. 研究方法

老年医学、腫瘍内科学、腫瘍外科学、婦人科腫瘍学、放射線腫瘍学、社会医学、老年病態研究を専門とする7名からなる編集委員会を結成し、田村班班長であった田村和夫先生に監修を依頼した。さらに、日本がんサポーターブケア学会（JASCC）の教育委員会に本研究への協力を要請し、共同体制を確立した。テキストブックの内容を協議検討し、①加齢による分子・細胞や臓器の変化、②加齢に伴う心身・社会・経済的な問題、③高齢者がんならびにがん患者の病態生理、④適切な併存症・合併症治療、⑤がんの予防・診断・治療（治療選択・治療の止め時）、⑥必要に応じて関連するがん専門医や包括ケアセンター（介護・福祉サービス）を紹介できること、⑦医療経済（費用対効果・quality adjusted life year[QALY]）、⑧終末期医療（quality of death・良い死に方、ACP）を理解できる書籍とすることとした。

C. 研究結果

2023年3月に、研修医と一般医を主な対象とし、医療系の教員が学生教育で参照できる内容とし

て、336ページからなる「よくわかる老年腫瘍学」を発行した。執筆は、老年医学科・腫瘍関連各科・支持療法専門家などそれぞれの分野の専門家が協力して当たった。章立ては5章とし、第1章では、高齢がん患者の特徴、何が非高齢者と違うのかを細胞レベルから社会・経済的背景まで記述し、第2章では、高齢がん患者の主治医として考慮すべき点を、機能評価、機能評価に基づく目標設定と治療法の選択、治療の支持療法、併存症への対応に渡って記載した。第3章では、がんを持つ高齢者への対応を、QOLとQOD(quality of death)の視点から記載し、第4章では教育研修制度、第5章では老年腫瘍学領域の研究手法について記載した。原稿は、高齢者がん診療ガイドライン委員、高齢者がん医療協議会委員、関連学会の会員の協力により内容のチェックを受けた。

D. 考察

本書では、老年医学と腫瘍学の間用語の相違などにも配慮した。例えば、フレイルという用語は老年医学分野では、加齢に伴う生理的予備能の低下によって心身機能障害に陥りやすい状態、要介護状態の前段階として位置付けられ介入によって再び健常な状態に戻るといった可逆性がある状態とされている。しかし、腫瘍学においては、積極的な治療介入が困難な治療に unfit の状態として使われる。本書では、腫瘍学における unfit の状態は frail と記載して、老年医学領域のフレイルと区別した。

E. 結論

本書籍により多くの学生、医療者が老年腫瘍学を理解し、わが国の高齢者がん医療がより良いものとなることを期待している。

G. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし
3. 書籍 よくわかる老年腫瘍学（金原出版）

H. 知的財産権の出願・登録状況

- 1 特許取得、2 実用新案登録、3 その他：なし